プレスリリース
報道担当者各位

株式会社メイツ
2026年11月05日

ICTサービス「aim@」、動画付き教材の学習が18ヶ月で累計130万回を突破
ー学習回数は前年同期比約2.1倍に。生成AIを活用して解説動画を刷新ー

株式会社メイツ（本社：東京都新宿区、代表取締役：遠藤尚範、以下メイツ）は、提供する教育機関向けICTサービス「aim@（エイムアット）」上の動画コンテンツについて、2025年4月から2026年9月までの利用データを集計しました。動画付き教材の学習回数は18ヶ月で累計1,326,333回、学習時間は約8.7万時間に達し、2026年度上期（4〜9月）は学習回数が前年同期の約2.1倍、学習時間が約2.3倍に拡大しました。月間の利用法人数は最大246にのぼります。

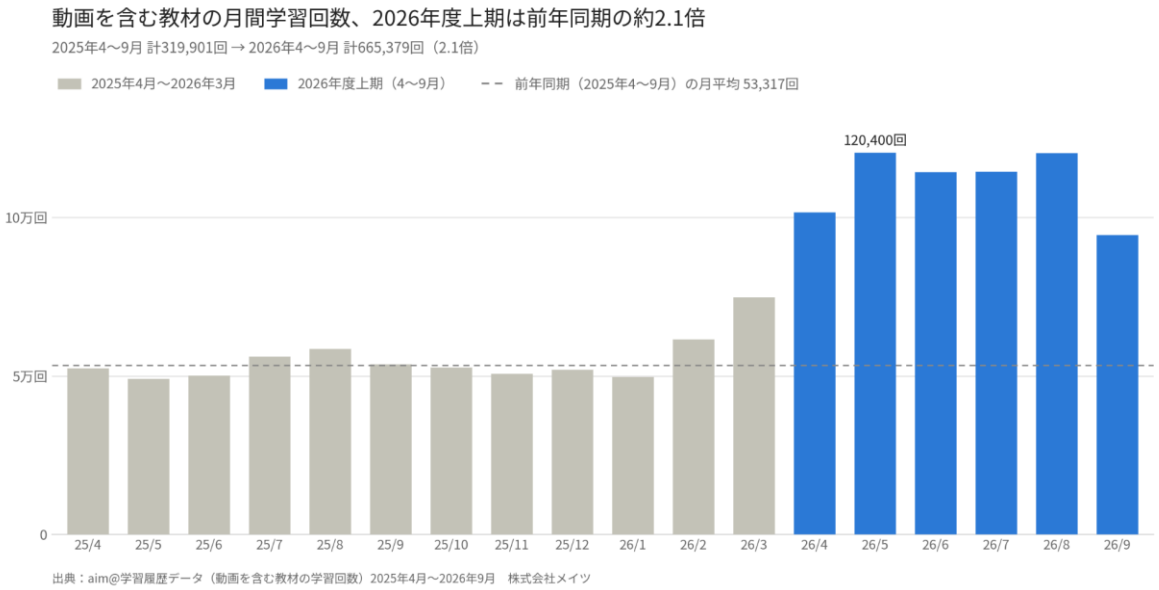
背景には、aim@を動画の配信基盤として活用する教育機関の広がりがあり、動画視聴を中心とする教材の1回あたりの学習時間は約2分から約6分へと伸びました。さらに、2026年5月に生成AIを活用して解説動画を刷新した後、対象教材では再生ボタンが押される頻度も増えています。

■調査の背景

個別指導や自立型指導が広がるなか、学習塾をはじめとする教育現場では、単元の導入や解説を動画で行い、生徒がそれぞれのペースで演習に進む場面が増えています。講師がすべての生徒に同じ説明を繰り返す負担を減らしつつ、一人ひとりの理解に合わせた学習を進めるためです。一方で、教育現場の日常の学習で動画がどの程度使われているかを示すデータは多くありません。

aim@では、演習問題に付いた解説動画（生成AIを活用して作成したものを含む）や、単元の授業動画・導入動画など、教材の中で動画を提供しています。メイツの標準教材に加え、一部の導入先では、独自教材に含まれる動画も、aim@の生徒用画面で配信されています。メイツは、これらの動画コンテンツの実利用データを集計し、教育現場における動画活用の広がりをまとめました。

■利用状況① 動画付き教材の学習は前年同期比約2.1倍、累計130万回を突破



2026年4月の新年度以降、動画付き教材の月間学習回数は10万回前後で推移しています。18ヶ月の累計は1,326,333回に達しました。学習時間でみても、2026年度上期は約45,763時間と前年同期（約20,083時間）の約2.3倍に増え、18ヶ月の累計は約86,966時間にのぼります。

■利用状況② 利用は月間最大246法人・8,281IDに拡大

動画付き教材を学習した生徒IDは、月平均3,878（2025年4〜9月）から7,469（2026年4〜9月）へと約1.9倍に増えました。最も多かった2026年6月には8,281IDが利用しています。利用法人数も月平均198から227に増え、2026年9月には集計期間中で最多の246法人となりました。

■動画活用に関する2つの動き

動画の活用に関して、独自動画の配信と、生成AIによる解説動画の刷新という、2つの動きがあります。

動き① 独自の動画も届けられる「動画プラットフォーム」として活用が拡大

aim@では、大規模に導入する教育機関向けに、独自に用意した授業動画・導入動画を、メイツの標準教材と同じ生徒用画面で配信できるよう個別に対応しています。こうした教育機関を中心に、独自の動画教材をaim@上で本格的に活用する動きが進みました。授業動画・導入動画など、動画を見ること自体が学習になるコンテンツの学習回数は、2025年4〜9月の47,295回から2026年4〜9月の107,771回へと約2.3倍に伸びています。

学習時間にも変化が見られました。こうしたコンテンツの1回あたりの学習時間は約1.9分から約5.7分へと約3倍に伸び、合計学習時間は約1,506時間から約10,288時間に増えています。aim@が演習教

材にとどまらず、動画を生徒に届ける場として使われるようになったことが、利用拡大を大きく牽引しました。

動き② 生成AIを活用した解説動画の刷新後、クリック頻度が増加

定期テスト対策コンテンツには、これまでも解説文を読み上げる形式の解説動画を搭載していました。メイツは2026年5月27日、この解説動画を、生成AIを活用して作り込んだ新しい動画へと刷新し、中学の英語・数学から順次搭載を始めました。重要なポイントを色分けで示し、「なぜそうなるのか」という理由まで授業のように説明する動画です。

対象教材の解説動画の再生ボタンが押された回数を、教材の学習100回あたりでみると、刷新前の2026年4〜5月は約8.5回でしたが、刷新後の6〜9月は約10.1回に増え、9月には12.5回となりました。解説動画を開いた生徒1人あたりの月間クリック数も、4〜6月の3〜4回から、7〜9月は約5回に増えています。対象教材では、解説動画の再生ボタンが押される頻度が増えています。

この2025年度改訂版の定期テスト対策はメイツの標準教材で、2026年度上期の学習回数は前年同期の約1.9倍に伸びています。刷新後も月平均150を超える教育機関で使われており、大規模導入先に限らず、幅広い教育機関で動画を取り入れた学習が広がっています。

■今後の展望

動画は、演習とセットで理解を深める解説としても、単元の導入を担う授業としても、教育現場の日常の指導に取り入れられ始めています。教員は管理画面「aim@ for school」で生徒の学習状況や履歴を確認し、指導に活用できます。メイツは今後、生成AIによる解説動画を中学の理科・社会・国語や高校の英語・数学へ順次広げ、動画と演習を組み合わせた学習をさらに充実させていきます。

■導入・無料体験について

導入をご検討の際は、下記のお問い合わせフォームよりご連絡いただければ、最短1日でご利用を開始することが可能です。

また、随時無料アカウントの配布も行っており、実際の操作感をお試しいただいたり、収録されている問題内容をご確認いただくことも可能です。ご興味を持たれた方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

▼お問い合わせはこちらから
https://mates-app.jp/aim/new-kobetsu-form/

▼資料請求はこちらから
https://mates-app.jp/aim/document-form/

プレスリリース
報道担当者各位

株式会社メイツ
2026年11月05日

■集計概要

項目	内容
集計対象	aim@上の動画付き教材（解説動画・ヒント動画・授業動画などを1本以上含む教材）の学習履歴
集計期間	2025年4月1日〜2026年9月30日（月次で集計）
除外条件	デモ用・社内確認用のアカウントおよび教室
学習回数	動画付き教材の学習セッション数。動画の再生回数とは異なる
学習時間	学習画面の操作時間（解答・解説を含む）の合計。1回最大60分として集計。動画の再生時間とは異なる
利用法人数・利用ID数	各月に1回以上の利用があった法人・IDのユニーク数（月ごとの値）
解説動画のクリック数	定期テスト対策の解説動画の再生ボタンのクリック数（2025年12月から計測）

※本リリースの数値は、aim@の学習履歴データ（2025年4月1日〜2026年9月30日）を、上記の除外条件に基づいて集計したものです。各指標の定義は「■集計概要」のとおりです。
※「学習時間」は、学習画面の操作時間（解答・解説を含む）を集計したもので、動画の再生時間とは異なります。1回の学習は最大60分として集計しています。
※動き②のクリック数は、2025年12月から計測している解説動画の再生ボタンのクリック数です。生成AIで刷新した動画は中学の英語・数学から順次搭載しているため、刷新前の解説動画も含みます。「学習100回あたり」は、クリック数を同じ教材の学習回数で割った参考値です。

プレスリリース
報道担当者各位

株式会社メイツ
2026年11月05日

学習プラットフォーム「aim@」概要

商品	教育機関向けICTサービスaim@
対象科目	小学生(算英)・中学生(英数理社国・実技)・高校生(英数・情報Ⅰ)・英検®(5級～準1級)・漢検（10級~2級）・中受(算理社)・高受(英数理社国)・その他
提供プラットフォーム	WEB
利用可能デバイス	iOS, Android, Windows, macOS, Chromebook
バージョン	○ 推奨OS Windows 11 ,macOS （ ver: Catalina 以上 ）,Android （ ver: 10 以上 ）,iPadOS （ ver:16 以上 ）,iOS （ ver: 16 以上 ） ○ 対応ブラウザ(最新版を推奨) Windows： Chrome / Edge,macOS： Safari / Chrome,Android： Chrome,iPadOS： Safari / Chrome
URL	https://mates-app.jp/aim/

※英検®は、公益財団法人日本英語検定協会の登録商標です。
※このコンテンツは、公益財団法人日本英語検定協会の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

プレスリリース
報道担当者各位

株式会社メイツ
2026年11月05日

株式会社メイツについて

株式会社メイツは東京都新宿区高田馬場にある教育×ITのEdTech企業です。
ICTを用いて日々教育をアップデートしており、学習塾の現場が抱える課題を解決するICT教材を開発・販売し、多くの学校や学習塾を支援しています。

教育をアップデートし、子どもたちに最適な教育を提供する

教育とテクノロジーを融合させ、教育が永続的に進化する仕組みを創ります

株式会社メイツ(https://mates-edu.co.jp)

代表者　：代表取締役 遠藤尚範
本社　：東京都新宿区高田馬場2丁目14-2新陽ビル602
設立　：2014年(平成26年)1月
電話　：03-6233-8125
メール　：app-info@mates-system.com